

元町公園の保全及び旧元町小学校の利活用における検討課題について

1. 旧元町小学校

①保全、利活用部分の検討

建物の保全する部分と利活用する部分について、検討が必要である。これまでの歴史的施設の保全活用事例を調べ、民間活力を導入する施設としての保全活用案の方向性を検討する必要がある。

②元町公園との一体的利用

旧元町小学校と元町公園は一体利用ができるように設計され、実体化されたが、現在はフェンス等で区切られたものとなっており、新たな有効利用の検討の中で、一体性についても検討する必要がある。

③外壁、外装の耐久性把握

平成 24 年 2 月に打診及び赤外線カメラによる外壁診断を行い、一般的に外壁の剥離や浮きが目立ち、特に壁面の大きい部分に多く見られた。また、現状問題ない部分に関して、既存仕上材の耐久性の特定が課題となっている。

④バリアフリー(ユニバーサルデザイン)化、安全・防犯、利便性

スロープやエレベーターの設置等、障がい者や高齢者に配慮したバリアフリー化の検討が課題である。また、施設利用者の安全性、利便性に配慮した動線計画、避難・防犯計画について検討が必要と考えられる。火災発生時に外へ避難する場合の避難動線計画や非常階段設置等、防火シャッター、防火壁、防煙壁の設置について検討が必要である。

⑤環境への配慮

施設の断熱性能向上や自家発電機器導入等による省エネ化やエネルギーの効率化、環境に配慮した建築資材の利用等、持続可能な施設運営に向けての検討が必要である。

⑥長期利用に向けたインフラへの管理的配慮

施設管理の観点から、現状の配管・配線設備を見直し、ランニングコストの削減を検討するとともに、設備機器更新や日常の設備点検のしやすさに配慮した設備計画の検討が必要であると考えられる。

⑦継承するもの

避難所及び投票所としての機能は継承するとともに、過去の痛ましい事件を風化させない等の配慮も必要である。

2. 元町公園

①人が集う公園に

樹木の生長により、視認性の悪さが問題となっている。暗い場所での犯罪防止や近隣住民に利用しやすい環境づくりとして、明るさ確保や見通しの良い植栽管理計画について検討する必要がある。

②学校との一体性の検討

正面壁泉、正面壁のアーチ、曲線を用いたカスケード、滑り台、石柱風のパーゴラといった元町公園の主要施設は、当時のモダニズムの影響を強く受けたデザインであり、曲線を多用する塑形的なデザインは旧元町小学校の意匠と共通する。加えてフェンスや舗装、植栽計画等、敷地としての連続性、一体性の検討が必要であると考えられる。

③景観・眺望

神田川と川沿いの地域が調和した良好な景観や公園からの眺望の維持とともに、生長した樹木の適切な管理・更新も課題である。

④バリアフリー(ユニバーサルデザイン)、安全・防犯、利便性

これまでに老朽化対策とバリアフリー化を目的とした調査(昭和 59 年)・改修(昭和 60 年)のほか、時の需要に応じて順次手が加えられているが、改修の際には、古写真や図面、聞き取り等を参照して一部復元的整備が行われている。今後バリアフリー、安全、防犯、利便性等を検討する場合、同様の配慮が必要である。

⑤移動動線への配慮

元町公園の主となる広場は校庭に隣接して設けられており、今後の校舎の利活用を想定し、校舎から公園への移動が容易な動線の検討が必要であるとともに、道路からの利用動線についても、現在の地域利用を踏まえた動線を検討する必要があると考えられる。

⑥長期利用に向けたインフラへの管理的配慮

老朽化した施設はこれまで時の需要に応じ、順次手が加えられているが、当時使用されていた素材が耐久性等において管理上適切であるか、または代替の素材について検討し、歴史的公園としての風情を生かしつつ、保全・管理がしやすい施設整備方針の検討をすべきと考える。